エコアクション２１
環境経営レポート２０２４

～本当の空と豊かな自然を次世代に～

東北江南株式会社

期間：２０２４年５月～２０２５年４月

エコアクション21
認証番号 0001192

発　　行　　日　2025年7月15日
次回発行予定日　2026年7月15日

目　次

■ 環境経営方針 …… 3
■ 会社概要 …… 4
■ 認証・登録の対象組織・活動 …… 5
■ 環境経営システム実施体制 …… 6
■ 中長期環境経営目標 …… 7
■ 環境経営目標の実績 …… 8
■ 環境経営計画の取り組み結果と
その評価、次年度の取り組み内容 …… 9～11
■ 環境への主な取り組み …… 12～14
■ 環境関連法規等の遵守状況確認及び
評価の結果並び違反、訴訟等の有無 …… 15
■ 代表者による全体の評価と見直し …… 16

環境経営方針

【環境理念】

当社は、智恵子抄の故郷、安達太良山のふもとに位置し、恵まれた自然環境の中で、プラスチック、ゴム等の加工製品を製造販売する事業活動を行っています。

このかけがえのない自然との共生、調和を目指し、これからも「本当の空と豊かな自然を次世代に」継承するため、自主的、積極的、そして継続的に環境保全活動を推進します。

【行動指針】

エコアクション 21 に準拠し構築した環境経営システムに基づき、全員参加による環境管理を推進し、地球環境の改善に取り組むことで、より効率的な生産活動につなげていきます。

（1）資源、エネルギー等の効率的な活用

製品ごとに最適な生産方法を策定し、それに基づく生産の効率化により、水資源や電気･化石燃料等の消費による環境への負荷、資源枯渇等を認識し、省資源、省エネルギーの推進を図ります。

（2）廃棄物発生量の抑制と再資源化の推進

廃棄物発生抑制や不要物の分別、再資源化を推進し、廃棄量の最小化と適正処理を進めることで、材料ロスを低減し低コストでの生産を目指します。

（3）化学物質等による環境汚染の未然防止

化学物質類の購入、使用、廃棄等にあたって、製品安全データシート SDS（MSDS）を活用し、適正管理･運用等による環境汚染の未然防止に努めます。

（4）環境関連法規等の遵守

事業活動に係る環境関連法規、条例、協定等、及び当社が受入を決めたその他の要求事項を遵守します。

（5）全員参加による地球環境保全の実践

すべての社員が環境問題の現状や環境経営の意義、組織の環境経営方針を理解し、自ら積極的に実践するための周知を行います。また、よき企業市民の一員として、社会や地域貢献活動に努めます。

2006 年　5 月　1 日制定
2019 年　5 月　7 日改定

東北江南株式会社
代表取締役 遠藤 敏晶

会社概要

1. 事業所名及び代表者名

東北江南株式会社
代表取締役　遠藤敏晶

2. 所 在 地

福島県二本松市小沢字柳原 72-4

3. 設　　立

1992 年 5 月 25 日

4. 事業内容

工業用ゴム・プラスチック製品の製造及び販売

5. 環境保全関係の責任者及び担当者

環境管理統括責任者　　遠藤敏晶
環境管理責任者　　遠藤隆雄

6. 連 絡 先

ＴＥＬ　0243-61-3491　　担当：環境管理責任者　遠藤隆雄
ＦＡＸ　0243-53-2770
ＵＲＬ　https://t-kounan.co.jp
ＭＡＩＬ　info@t-kounan.co.jp

7. 事業規模

資 本 金　1000 万円
従業員数　337 名（男 201 人・女 136 人）（2025 年 4 月）
床 面 積　本社工場　841 ㎡
第二工場　1013 ㎡
第三工場（ｸﾘｰﾝﾙｰﾑ／食堂）　351 ㎡
第四工場　1013 ㎡
第五工場　1273 ㎡
第六工場　851 ㎡
第七工場　892 ㎡
第八工場　1014 ㎡
売 上 高　45 億 4351 万円
生 産 高　442.1t

認証・登録の対象組織・活動

当社の全組織、全活動を対象とします。

登　録　組　織　名：　東北江南株式会社　本社

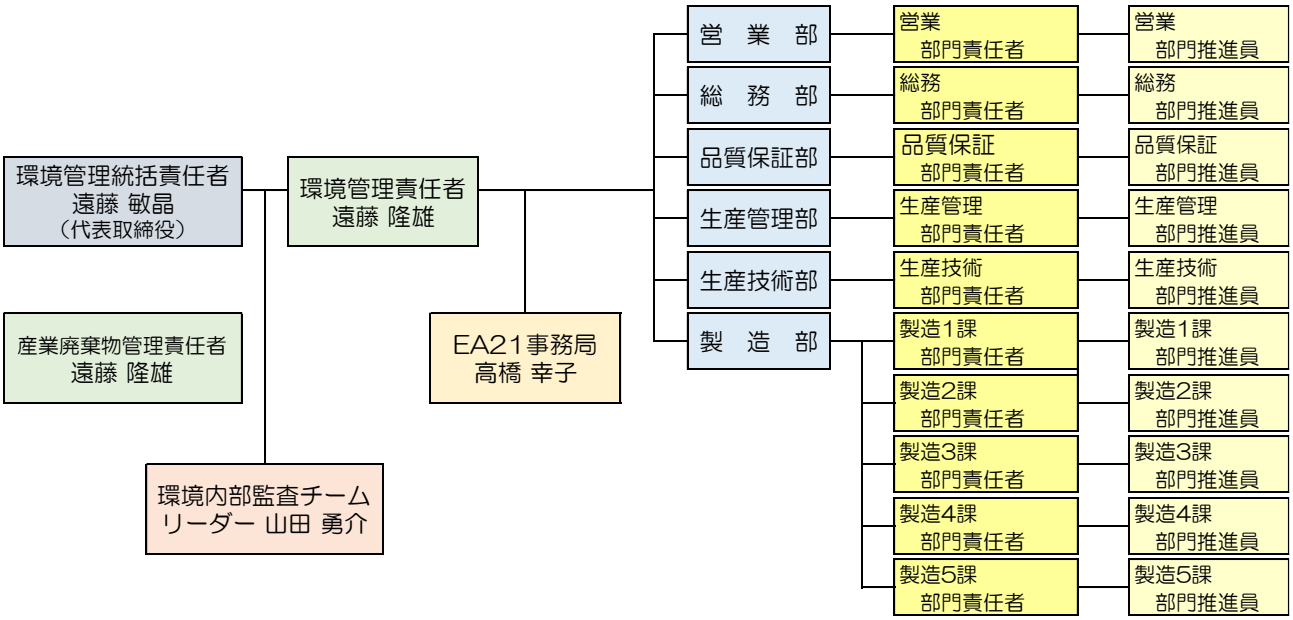
活　　動：　工業用ゴム・プラスチック製品の製造及び販売

エコアクション２１
認証登録の状況　　：　認証番号　0001192
認証登録日　2006 年 12 月 13 日
更新登録日　2024 年 12 月 13 日

その他認証
ＩＳＯ９００１　　：　登録番号　Q4853
認証登録日　2015 年６月 26 日
有効期限　2027 年６月 26 日

エコアクション21実施体制

2006年05年01日 作成
2024年06月30日 改訂



	役割・責任・権限
環境管理統括責任者 （代表取締役）	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・実施体制を構築し環境管理責任者を任命 ・経営における課題とチャンスの整理 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境経営活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認 ・訓練の企画・実施
EA21事務局	・環境管理責任者の補佐、EA21推進委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境経営活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・環境経営レポートの作成、公開（事務所に備付けと地域事務局への送付） ・訓練記録の作成
部門責任者	・自部門における環境方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
部門推進員	・部門責任者の補佐
環境内部監査チーム	・環境に関する内部監査の計画・実施・報告 ・EA21の環境活動への取組が適正に行われているかの確認 ・監査計画の立案と監査結果の報告
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境経営活動へ参加

中長期環境経営目標

						年度目標		
No.	環　境　目　標			単位	**2023年実績** （基準年）	2024年目標 （1%削減）	2025年目標 （2%削減）	2026年目標 （3%削減）
1	二酸化炭素排出量の削減	CO2排出量の削減		kg-CO2	(1,329,232)	(1,315,939)	(1,302,647)	(1,289,355)
				原単位 (kg-CO2/万円)	2.92	対基準年原単位 2.89（▲1%減）	対基準年原単位 2.86（▲2%減）	対基準年原単位 2.83（▲3%減）
		内訳	購入電力	kg-CO2	(1,226,483)	(1,214,218)	(1,201,953)	(1,189,688)
				原単位 (kg-CO2/万円)	2.69	対基準年原単位 2.66（▲1%減）	対基準年原単位 2.63（▲2%減）	対基準年原単位 2.60（▲3%減）
			化石燃料	kg-CO2	(102,749)	(101,721)	(100,694)	(99,666)
				原単位 (kg-CO2/百万円)	22.61	対基準年原単位 22.38（▲1%減）	対基準年原単位 22.15（▲2%減）	対基準年原単位 21.93（▲3%減）
		電力消費量		kWh	(2,571,244)	(2,545,531)	(2,519,819)	(2,494,106)
				原単位 (kWh/万円)	5.65	対基準年原単位 5.59（▲1%減）	対基準年原単位 5.53（▲2%減）	対基準年原単位 5.48（▲3%減）
		燃料消費量	灯油	ℓ	1,144.0			
			LPG	m3	403.1			
			ガソリン	ℓ	37,826.5			
			軽油	ℓ	3,705.5			
2	廃棄物排出量の削減	紙の使用量		kg	(4,990)	(4,940)	(4,890)	(4,840)
				原単位 (kg/百万円)	1.09	対基準年原単 1.07（▲1%減）	対基準年原単位 1.06（▲2%減）	対基準年原単位 1.05（▲3%減）
		廃棄物排出量（廃プラ、廃油等）		kg	(268,524)	(265,838)	(263,153)	(260,468)
				原単位 (kg/百万円)	59.10	対基準年原単位 58.50(▲1%減)	対基準年原単位 57.91(▲2%減)	対基準年原単位 57.32(▲3%減)
3	水道使用量の削減	上水使用量		m3	(3,980)	(3,940)	(3,900)	(3,860)
				原単位 (m3/千万円)	8.75	対基準年原単位 8.66（▲1%減）	対基準年原単位 8.57（▲2%減）	対基準年原単位 8.48（▲3%減）
4	化学物質使用量の管理	化学物質関連法令の遵守、適正管理			－	低有害化物質への転換		
5	製品への環境配慮	不良で発生する廃棄材料やエネルギー消費量を減らす			不良発生率 0.102%	不良発生率 0.101% 以下	不良発生率 0.100% 以下	不良発生率 0.099% 以下
6	社会貢献活動の推進	工場内緑化及び美化活動の推進			－	工場周辺の清掃活動		

◇No.4と6は基準年度の設定は行っておりません。

*1 電力のCO2排出係数は東北電力の2022年度の調整後排出係数0.477kg-CO2/kWhを使用

*2 不良発生率は社内外で確認された不良品件数を生産件数で割った数値

*3 原単位は**実績÷売上額**で算出され、実績の値が過少な項目に関しては単位の表示が変わります。

*4 評価欄：〇は達成、×は未達

環境経営目標の実績（期間：2024年5月 ～ 2025年4月）

No.	環境目標			単位	2023年 実績 (基準年)	2024年 目標 (1%削減)	2024年 実績	評価	コメント
1	二酸化炭素排出量の削減	CO2排出量の削減		kg-CO2	(1,329,232)	(1,315,939)	(1,293,374)	○	社内での省エネルギー活動やLED照明設備、太陽光発電装置の導入により、削減目標を上回る成果を達成した。
				原単位 (kg-CO2/万円)	2.92	対基準年原単位 2.89 （▲1%減）	対基準年原単位 2.82 （▲3%減）		
		内訳	購入電力	kg-CO2	(1,226,483)	(1,214,218)	(1,211,808)	○	電力使用量は増加したが、東北電力のCO2排出係数の低下によりCO2排出量は目標値を下回る結果となった。
				原単位 (kWh-CO2/万円)	2.69	対基準年原単位 2.66 （▲1%減）	対基準年原単位 2.65 （▲1%減）		
			化石燃料	kg-CO2	(102,749)	(101,721)	(81,566)	○	灯油を使用する暖房機器の撤廃や営業ルートの最適化により、社有車のガソリンおよび軽油の使用量を削減し、目標値を下回る実績を達成した。
				原単位 (kg-CO2/百万円)	22.61	対基準年原単位 22.38 （▲1%減）	対基準年原単位 17.84 （▲21%減）		
		電力消費量		kWh	(2,571,244)	(2,545,531)	(2,556,558)	×	増産や工作機械の新規導入により電力使用量が増加した為、目標数値より実績が上回ってしまった。
				原単位 (kWh/万円)	5.65	対基準年原単位 5.59 （▲1%減）	対基準年原単位 5.59 （▲1%減）		
		燃料消費量	灯油	ℓ	1,144.0		333.0		
			LPG	m3	403.1		452.1		
			ガソリン	ℓ	37,826.5		31,330.1		
			軽油	ℓ	3,705.5		2,441.3		
2	廃棄物排出量の削減	紙の使用量		kg	(4,990)	(4,940)	(4,990)	×	廃プラスチック（切粉）を有価物として再利用することを目指し、約2年間にわたり保管していたものの、最終的に有価物としての使用が不可能となったため、埋立処分や燃料として多量に処分することとなり、その結果、目標値を大きく上回る数値となってしまった。
				原単位 (kg/百万円)	1.09	対基準年原単位 1.07 （▲1%減）	対基準年原単位 1.09 (-)		
		廃棄物排出量（廃プラ、廃油等）		kg	(268,524)	(265,838)	(446,226)	×	
				原単位 (kg/百万円)	59.10	対基準年原単位 58.50 （▲1%減）	対基準年原単位 97.62 (65%増)		
3	水道使用量の削減	上水使用量		m3	(3,980)	(3,940)	(4,338)	×	工作機械で使用する切削油の交換作業が増加した為、水道水の使用が増加してしまった。
				原単位 (m3/千万円)	8.75	対基準年原単位 8.66 （▲1%減）	対基準年原単位 9.49 （8%増）		
4	化学物質使用量の管理	化学物質関連法令の遵守・適正管理			—	低有害化物質への転換	有害化学物質の使用量削減	○	2-プロパノールをはじめとする有機溶剤の使用量を削減することができた。
5	製品への環境配慮	不良で発生する廃棄材料やエネルギー消費量を減らす			不良発生率 0.102%	不良発生率 0.101%以下	0.05%	○	品質管理に関する教育の実施および不良発生状況の周知徹底により、不良発生率は目標値を下回る結果となった。
6	社会貢献活動の推進	工場内緑化及び美化活動の推進			—	工場周辺の清掃活動	工場構外土手の草刈りを実施	○	工場構外の土手にて草刈りを実施し、小沢工業団地の景観を維持することができた。

*1 電力のCO2排出係数は、東北電力の2023年度調整後排出係数（0.474kg-CO2/kWh）を使用しました。
*2 原単位は、**実績÷売上額**で算出しています。
*3 評価欄：○は達成、×は未達

2024 年度環境経営計画及び取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容（1/2）

NO	項目	目標	実施方法	評価	次年度の取組内容	
1	CO2 排出量の削減	化石燃料使用量の削減	車両整備	○	継続して実施	・営業ルートの最適化を行い、ガソリン使用量の削減に努める
			始業点検、定期自主点検の励行	○	継続して実施	
			エコドライブの徹底（急発進、急停車しない等）	○	継続して実施	
			「燃費ノート」への記録	○	継続して実施	
			法定速度の遵守	○	継続して実施	
			毎月毎の化石燃料使用量の確認と状況報告	○	継続して実施	
		電力消費量の削減	定期的にエアコンフィルターと室外機フィンの清掃	○	継続して実施	・太陽光発電設備稼働（年間約 707,000kwh 発電見込） ・機械設備の新規及び更新時の省エネ型機を導入、検討
			エアコン温度管理の徹底（冷房 26℃、暖房 21℃）	○	継続して実施	
			機械のアイドリングを短縮、昼休みは機械の停止の運用	○	継続して実施	
			照明の LED 化	○	達成の為、修了	
			太陽光発電を利用（年間約 707,000kwh）	○	継続して実施	
			機械設備の新規購入及び更新時、省エネルギー型機を導入・検討	○	継続して実施	
			クールビズ、ウォームビズの推奨 寒さ対策用インナーの配布（2 月～4 月）	○	継続して実施	
			毎月毎の CO2 排出量と電力使用量の確認と状況報告	○	継続して実施	
2	廃棄物排出量の削減	紙使用量の削減	古紙回収の推進（コピー用紙回収箱、ダンボール回収置場の設置）	○	継続して実施	・文書の電子化 ・回覧や周知文書のディスプレイ表示又はメール通知 ・DX 推進による紙使用量の削減
			裏紙使用の徹底（裏紙置場の設置）	○	継続して実施	
			商品購入時のダンボールの再利用(荷送り箱へ利用)	○	継続して実施	
			メールでのデータ配信	○	継続して実施	
			ディスプレイによる掲示物の表示	○	段階的に実施	
			文書の電子化	○	継続して実施	
		産業廃棄物の削減	マスキングの回収箱の設置	○	継続して実施	・廃棄物の分別の徹底と廃棄物の有価化
			木製パレットの持ち帰り推進	○	継続して実施	
			残材管理システムの構築（残材の再利用）	○	継続して実施	
			廃棄物分別の徹底、廃棄物の有価化	○	継続して実施	
			毎月毎の廃棄物排出量の確認と状況報告	○	継続して実施	
3	水道使用量の削減	水道使用量の削減	雨水利用の推進（雨水の貯水装置で運用）	○	継続して実施	・節水の励行
			節水啓発 POP の掲示	○	継続して実施	
			トイレ用擬音装置の設置、管理	○	継続して実施	
			製品のため洗い励行	○	継続して実施	
			毎月毎の水使用量の確認と状況報告	○	継続して実施	
4	化学物質使用量の管理	化学物質関連法令の遵守、適正管理	新規購入量の把握	○	継続して実施	・化学物質の使用や保管の適正管理
			最新版 SDS 入手と取扱者への情報伝達の徹底	○	継続して実施	
			法改正に伴う該当物質の情報収集と管理の徹底	○	継続して実施	
5	製品への環境配慮	不良品を減らし廃棄する材料を削減する	毎月の社内不良品発生率を集計、掲示	○	継続して実施	・生産効率と品質向上
6	社会貢献活動の推進	工場内緑化及び美化活動の推進	工場周辺の清掃活動、除草作業の実施	○	継続して実施	・工場周辺の除草作業で景観美化 ・春・秋年２回の地域医療の支援 ・太陽光発電設備の増設を通じて、災害時に工場周辺住民への電力供給の協力
		献血協力	二本松市経由福島県赤十字血液センターの献血バスでの献血協力	○	継続して実施	

2024 年度環境経営計画及び取り組み結果とその評価、次年度の取り組み内容（2／2）

改善取組事項		結果	評価及び次年度の取り組み内容
1	二酸化炭素排出量の削減	達成	社内での省エネ活動、LED 照明設備・太陽光発電設備の増設などにより削減目標を上回る成果を達成することができました。次年度も引き続き、社員一人ひとりによる省エネ活動を推進し、CO2 排出量削減に取り組んでまいります。
	電力使用量の削減	達成	日々の節電活動に加え、本年度は 3 工場を除く全ての工場に太陽光パネルを増設・稼働して工場内で使用される電力の一部として活用しています。発電量は使用電力の約 18%に相当しました。天候に左右されるものの、次年度は使用電力の約 30%に相当する 707,000kwh の発電が見込まれており、CO2 排出量の削減に期待されます。
	燃料消費量の削減	達成	灯油を使用する暖房機器の撤廃と、営業ルートの最適化による社有車のガソリンおよび軽油の使用量削減により目標を達成することができました。今後も引き続き、ガソリンなどの化石燃料の削減に努めてまいります。
2	紙の使用量	未達成	製造部門の DX 化については課題があり、なかなか進まない状況ではありますが、一部のラインで試験的にタブレットやパソコンを導入し、検証を行っています。今後も課題を一つひとつ解決しながら、引き続き製造部門の DX 化を推進し、紙の使用量削減に努めてまいります。
	廃棄物排出量の削減	達成	PVC、PP、PE、PMMA、MC ナイロン、POM、PPS などの廃棄物は分別を徹底し、再ペレット化によって再資源化を行っています。また、工場内で発生するフィルムやエアーキャップなどの廃プラスチックは RPF（固形燃料）として再資源化しています。次年度も分別の徹底に努め、再資源化に継続して取り組んでまいります。
3	水道使用量の削減	未達成	工作機械の新規導入や既存機械の切削液の入れ替え作業により水の使用量が増加しました。さらに、従業員の増加に伴い生活用水の使用量も増加したため、目標の達成には至りませんでした。しかしながら、引き続き社員一人ひとりが節水を意識し、水使用量の削減活動に努めてまいります。
4	化学物質使用量の管理	達成	前年度は化学物質に関する漏洩事故の発生はありませんでした。化学物質の取り扱いに関する安全意識の向上の成果と評価できます。また、法改正に伴い、SDS の取得と社員への周知を実施し、価格物質の適正な使用と情報管理に努めました。今後も引き続き関連法令を遵守しながら、安全かつ適切な化学物質の使用管理に取り組み、事故ゼロ維持と環境負荷の軽減を目指してまいります。

5	製品への環境配慮	達成	前年度の社内不良発生率は 0.05%と、目標値を下回り達成いたしました。この成果は、製品品質の向上とともに、無駄の削減による資源・エネルギー使用量の最適化に寄与するものです。今後もさらなる品質向上に努め、省資源・省エネルギーの推進および廃棄物排出量の削減を通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。
6	社会貢献活動の推進	達成	前年度は工場外周の草刈りを実施し、地域の景観美化に寄与しました。また、年２回にわたり献血車両の受け入れ、地域医療への支援にも努めました。 さらに、太陽光発電設備の増設を通じて、災害時に工場周辺の地域住民へ電力供給の協力が可能となる体制づくりを進めており、企業の社会的責任として今後も継続的に強化してまいります。

環境への主な取り組み

■ 自然エネルギーの活用：太陽光発電設備の増設

2012 年９月より第５工場、2018 年３月より第６工場の屋上に太陽光発電設備を設置し稼働していましたが、これまでの発電量（自家消費量）は電力消費量の 0.5～0.8%に留まっていました。

2023 年４月には第５工場、第６工場、第８工場の屋上に、2024 年１月には第４工場、第７工場、さらに 2024 年２月には第１工場、第２工場の屋上に太陽光発電設備を増設・稼働し、太陽電池システム容量は合計 701.7kW に達しました。

これにより 2023 年度の発電量は電力消費量の 15%を占め、３工場を除くのすべての工場に太陽光発電装置が稼働する 2024 年度は約 18%、さらに天候に影響をうけるものの、2025 年度には約 30%の発電量が見込まれています。これにより、購入電力量の削減と、それに伴う CO2 排出量の削減を実現することができました。

【工場屋上設置の太陽光パネル写真】

【太陽光発電式外灯写真】

【太陽光発電装置稼働状況モニター写真】

【太陽光発電装置蓄電池写真】

■ 全工場の照明 LED 化を 100%達成

事務所および全工場において、蛍光灯１９２基をLED照明へと置き換えました。これにより、年間で約３０，０００ｋｗｈの電力使用量、ならびに約１５ｔのＣＯ２排出量の削減が見込まれています。従業員からは「以前より室内が明るくなった」との声が寄せられており、作業環境の改善にもつながっています。また、照明機器の長寿命化により蛍光灯交換にかかる手間やコスト削減できただけでなく、廃棄物の排出量も抑制することができました。

■ 廃棄物の再資源化と排出量削減の取り組み

材料加工後に発生する残材のうち、再利用が困難なものや機械加工によって排出される切粉などについては素材ごとに分別を行い、廃棄物の再資源化に注力している産業廃棄物業者へ依頼しています。これにより、再利用が難しい廃プラスチックは再生ペレットとして再資源化され、国内外の再生工場にて再生パレットなどの製品に再生されています。また、梱包材に使用されるストレッチフィルムや緩衝材などの廃プラスチック類は木くずや繊維とともに破砕・圧縮され、固形燃料（RPF）として製紙会社などにおいて助燃材として再利用されています。これらの取り組みにより、廃棄物の排出量削減に貢献しております。今後もさらに分別の精度を高め、廃棄物排出量の継続的な削減に取り組んでまいります。

【廃プラ分別置場写真】

【再生ペレット写真】

【ストレッチフィルム等廃プラ】

【固形燃料ＲＰＦ】

■ 緊急事態訓練

当社では毎年秋に避難訓練を実施し、火災発生時における社員一人ひとりの対応について訓練と見直しを行っています。

また、環境に重大な影響を及ぼす可能性のある事故として、廃油などの漏洩を想定した対応訓練も実施し、対応手順の検証と改善に努めています。

【避難訓練の様子】

【緊急事態想定訓練の様子】

■ 社会貢献活動

前年度は工場外周の草刈りを実施し、地域の景観美化に寄与しました。また、年 2 回にわたり献血車両を受け入れ、地域医療への支援にも努めました。

さらに、太陽光発電設備の増設を通じて、災害時に工場周辺の地域住民へ電力供給の協力が可能となる体制づくりを進めており、企業の社会的責任として今後も継続的に強化してまいります。

【工場外回り草刈り作業風景】

環境関連法規等の遵守状況確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

当社に適用される環境関連法規等の遵守状況を確認した結果、問題はありませんでした。また、これらの法規制等に関して、関係当局からの違反、指摘及び地域住民からの苦情や訴訟などもありませんでした。

主な環境関連法規等

適用される法規制	遵守すべき要求事項	評価
浄化槽法	・年４回の保守点検（保守点検登録業者） ・年１回の清掃（浄化槽清掃業者委託） ・年１回の定期検査（指定検査機関）	遵守
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・産廃収集運搬・処理業者の許可確認、書面締結 ・産業廃棄物の保管管理（飛散・浸透防止・囲い設置） ・保管場所の表示（60×60 ㎝） ・産業廃棄物管理票の交付と５年間保存 ・産業廃棄物管理票交付等状況報告書の提出（福島県）	遵守
フロン排出抑制法	・3 か月に 1 回エアコンとコンプレッサーエアードライヤー簡易点検実施、結果の記録と保存	遵守
消防法	・消火設備点検 ・危険物の貯蔵と取扱い（指定数量 1/5 未満の貯蔵） ・危険物の取扱い（有資格者、無資格者は有資格者立会いの元取り扱う）	遵守
家電リサイクル法	・家電の長期間使用、使用後の廃棄物収集運搬業者への適正な引渡し、料金の支払い	遵守
使用済自動車の再資源化等に関する法律	・長期間の使用、使用済自動車の再資源化	遵守
福島県化学物質適正管理指針	・第一種指定化学物質及び管理化学物質の確認 ・SDS の取得と社員への周知、管理の徹底 ・当該化学物質の使用量を記録、５年間保管	遵守
福島県化学物質適正管理指針実施要項	・化学物質使用量等総括表（様式第２号）提出	遵守
福島県産業廃棄物の処理の適正化に関する条例	・産業廃棄物管理責任者の任命 ・産業廃棄物の処理について帳簿を備え、５年間保管	遵守

代表者による全体の評価と見直し

【実施日】2025 年６月３０日

当社の環境経営方針については、現状の方針を維持することとしたが、環境経営目標および計画の進捗状況については、電力消費量や紙の使用量、廃棄物排出量、上水使用量などで目標を達成できなかった点が見られた。電力と上水については事業拡大に伴う増加であり一定のやむを得ない側面があるが、紙については DX 化による削減の取り組みを進めている。また廃棄物については圧縮装置の試行により減容化を引き続き検討してほしい。

法令遵守の評価および環境情報の変化については、問題なく対応できていると判断した。環境に関する苦情や外部からの要望への対応についても、適切に処理できており大きな課題は認められなかった。

緊急事態への備えについては、避難訓練や想定訓練を実施しており対応力は確保されていると考えている。ただし、訓練の実施者が固定化することのないよう工夫が必要である。環境監視や内部監査についても、現状では十分に実施されており問題はないと判断した。

環境負荷の把握については取組みが進んでいるものの、その状況をより分かりやすく周知する工夫が求められる。教育・訓練については、焼却炉の廃止に伴い新たな廃棄物処理方法が増えたが、適切に教育が実施されており良好な状況にある。さらに、是正処置や予防処置についても内部監査を通じて確実に実施されており、実施体制についても特に問題は見られなかった。

いくつかの目標が未達となった点はあるものの、事業拡大の状況を踏まえると目標の設定方法や期間の見直しが必要となる可能性がある。廃棄物の減容を目的とした新しい設備の導入など、今後の取り組みも進展しており、これらを適切に活動へ反映させていくことを期待する。